せたがやの文化財

No. 027

編集・発行
世田谷区教育委員会事務局
生涯学習・地域・学校連携課文化財係
〒154-8504世田谷区世田谷4－21－27
Tel 03-5432-2726　Fax 03-5432-3039
http://www.city.setagaya.lg.jp
発行日　平成27年３月16日
再生紙を使用しています

区指定有形文化財「桜上水・八幡神社旧本殿保存修理工事」実施報告

photo by Joe Shimizu

photo by Joe Shimizu
寛文９年（1669）寄進の敷石

当社再建天明八年十月足石奉　鈴木穂積仲賢
奉寄進敷石四枚子々孫々息災延命
寛文九己酉年
武州荏原郡上北沢村　従但馬五代孫　鈴木助太夫
源　忠供

平成４年１２月に指定した「桜上水・八幡神社旧本殿」は老朽化が激しく、今年度、保存修理工事が行われました。修理項目は、①後に被せた鉄板屋根の解体、②柿葺（こけら）き屋根の復原、③構造補強、④意匠的破損箇所の修復、⑤彩色部の剥落止めです。大規模な修復工事は後世に譲り、主に緊急性の高い部分と柿葺き屋根の復原を行いました。

修理を終えた旧本殿を是非訪ねてみてください。（次頁に関連記事）

—案内—

八幡神社（上北沢）　桜上水３－２１－６
京王線桜上水駅下車　徒歩１０分

日露戦争の時、出征前の氏子が八幡神社に武運長久を祈願し、全員無事で帰還したことから、別名、勝利八幡と呼ばれています。

例大祭　１０月第２土・日曜日

photo by Joe Shimizu
旧本殿斗供（ときょう）彩色の痕跡が残る。

世田谷区最古の神社本殿建築　～八幡神社と旧本殿の歴史～

八幡神社は万寿３年（1026）に勧請したと伝えられていますが詳しいことは分かっていません（『新編武蔵国風土記稿』）。記録が残る造営は寛文９年（1669）が最も古く、上北沢村名主の鈴木助太夫源忠供が敷石４枚を寄進しています（表紙写真）。

保存修理工事を行った旧本殿は天明８年（1788）１０月に再建のため上棟されたものです（棟札・敷石銘）。当初は、境内中央に築かれた小高い丘の上に、覆屋に納めて安置されていましたが、昭和４３年（1968）に社殿を一新した折り、参道脇に移されました。当初は雨晒しでしたが、建物が傷むことから数年後には屋根に鉄板を被せました。

平成４年には、小規模ながら、区内の神社本殿建築では最古であることや、意匠・技術的に優秀であること、建築年代が明確であることなどが評価され、区指定有形文化財に指定されました。平成７年に保護のため鞘堂に納められました。

昭和５０年代の旧本殿

甦る柿葺き　～保存修理工事の様子から～

剥落止め

旧本殿には彩色が施されていますが、老朽化により当初の色彩がほとんど分からない状態になっています。今回の工事ではこれ以上彩色が剥落しないよう膠[1]によって浮いている顔料を止めました。

古い屋根を丁寧に剥がす

柿葺きの復原

鉄板屋根を解体すると柿葺きが現れました。柿葺きは厚み２㎜、長さ240 ㎜程度の柿板（椹材）を使用し、竹釘で留めて葺かれていました。葺き方から、①檜皮葺きのような葺き方をしている部分があること、②葺き替えた痕跡がないこと、③下地の造り方が雑であること、などが分かりました。

天明８年頃、周辺地域では柿葺きの建物が少なかったのかもしれません。職人が居らず、見よう見まねで葺いたのでしょうか。いずれにせよ、当時の世田谷地域で活躍した職人の技術として、旧状の形にこだわって復原しました。

また解体中、高さ調整のために絵馬と思われる板絵を使っていたことが分かりました。板絵は、絵馬としてはとても薄く、馬、鷹、狐などが描かれていました。何の目的で造られ、どの様な経緯で屋根の下地になったのか謎が多く残ります。

発見された板絵

欠損部の修理

長い年月の間に、木が枯れ、糊が剥がれ、部分的に欠損している所は新規に造って補いました。新規部分については、今後彩色の復原をする可能性も考慮し、古色塗りはせずに白木のままにしました。

ワークショップ

工事期間中、柿葺きと大工技術の体験をするワークショップを行いました。現代建築では見ることのできない技術を職人さんから丁寧に指導を受けて体験しました。簡単そうに見える作業も体験するととても難しく、職人さんの技術のすばらしさを改めて感じました。

ワークショップの様子
左：柿板を竹釘で打ち付ける
右：板を割って厚さ２㎜の柿板を作る

※保存修理工事は、「世田谷区登録・指定文化財保存事業費補助金」が交付され行われました。

１）膠…にかわ。動物の骨や皮を原料とし主に接着に用いられます。

都指定有形文化財　～淨眞寺阿弥陀如来坐像～　の修理が始まりました！

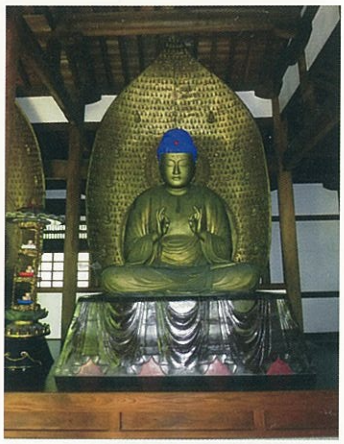
「九品仏」の名で知られる淨眞寺では、名前の由来となっている９躰の木造阿弥陀如来坐像の修理を始めました。

お像は、本堂と向い合って建つ上品堂、中品堂、下品堂の３つのお堂（三仏堂・世田谷区指定有形文化財）に３躰ずつ安置されています。淨眞寺開山の珂碩上人が寛文４年（1664）から７年にかけて造像したもので延宝８年（1680）頃、布貼り漆箔の荘厳が施されました。

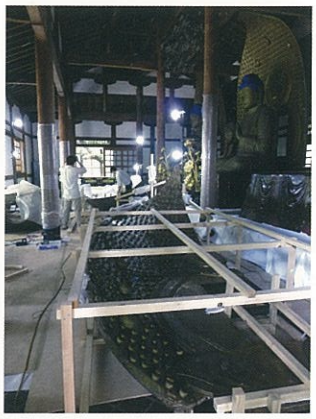
昭和３８年（1963）３月、本堂に安置する釈迦如来坐像と共に、東京都重宝（現在は都指定有形文化財）に指定されましたが、近年、表面にエナメル状の塗装がされるなど本来の姿とは異なった状態になっていました。

修理は今年度より実施し、頭部が前傾し危険な状態であった中品中生像から着手しました。今後１躰につき、１年半から２年をかけて９躰を修理し、最後に本堂に安置している釈迦如来坐像を修理する予定です。

現在、中品中生像（台座以外）は京都の修理業者の工房に持ち込まれています。表面の塗装を薬剤で落としたあと、仕上げをどの様にするか検討しながら修理が進められる予定です。



修理前の中品中生像



京都の工房へ運び出すための梱包作業

輸送中に破損しないよう、丁寧に、厳重に梱包されます

区指定有形文化財　～旧秋山家住宅土蔵～　の屋根の形を変更しました！

区立次大夫堀公園民家園にある旧秋山家住宅土蔵は移築復原から２５年を経ました。その間、茅葺き屋根（置屋根）が切妻造りであるために、茅葺きと塗込め屋根の間に雨風が吹き込み、漆喰壁の剥離等が発生し、傷みが目立っていました。

移築前の置屋根は切妻造りの鉄板葺きでした。移築復原に際し、茅葺きの痕跡が残っていたことから茅葺きで復原することになりました。形状を特定する具体的な資料が無いまま、鉄板葺き屋根が切妻造りであったため切妻造りに復原していました。

ところが、世田谷周辺地域に目を向けると、川崎市や横浜市、狛江市などでは切妻の妻側に小屋根を付けた、兜造り風の切妻造りの置屋根にした事例が見られ、旧秋山家住宅土蔵と同じ形状の屋根を見つけることができません。

そこで、老朽化に伴う葺替えを機に周辺地域の事例と同じ兜造り風の切妻造りに形を変更（現状変更）することになりました。変更により、直接土蔵の上部へ雨風が入り込む事がなくなり、土蔵本体の保護に役立つと考えています。

変更前

変更後

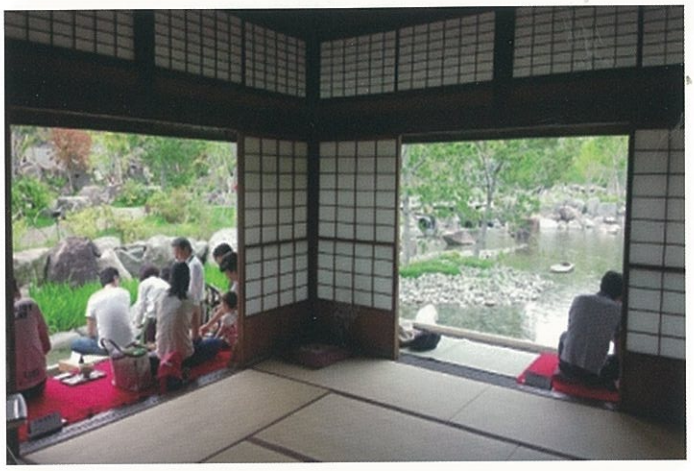
➢旧清水邸書院の公開事業

① 呈茶サービス

区登録有形文化財「旧清水邸書院」（区立二子玉川公園内　玉川１－１６）にて、呈茶サービスを実施しました。多摩川の心地よい風を肌で感じながら、書院の縁側に座り、ゆっくり日本庭園を眺めていただきました。

日にち：平成２６年５月２５日（日）

内　容：抹茶と和菓子のセットを３００円で提供



② 国重要無形文化財総合指定 常磐津節鑑賞会

旧清水邸書院で常磐津節の演奏を鑑賞しました。参加の方からは、「演奏する方のすぐ近くで聞いたので迫力がありました。和室の雰囲気もよくて素敵でした」と感想をお寄せいただきました。

日時：平成２６年１１月１日（土）

　　13:00、14:00、15:00 の３回

曲目：「恨葛露濡衣・小夜衣」（うらみくずつゆにぬれぎぬ・さよぎぬ）

～文化財保護強調週間・東京文化財ウィーク～

文化財保護強調週間（１１月１日～７日）は、国、都道府県や市区町村が、文化財保護の推進をはかり、文化財を大切にする啓発活動を行って、広く理解を得ることを目的に実施しています。この期間中には、各地で展覧会など各種行事が開催され、近年都内でも１０月と１１月を中心に「東京文化財ウィーク」が開催されています。

世田谷区では、平成２６年度は常磐津節鑑賞会、野毛古墳まつり、文化財記録映画上映会、遺跡調査・研究発表会、大館蔵品展などで参加しました。

➢郷土歴史文化特別授業

平成２６年９月１１日（木）、国本女子高校にて、古代の土器・石器に実際に触れてもらう郷土歴史文化特別授業を実施しました。高校での実施は初めてです。今までは小学校で行うことが多かったこの授業ですが、今後は小学校に限らず、区民の要望に応えながらいろいろな場での実施を検討していきます。

➢せたがや文化創造塾

平成２６年９月２０日（土）～２８日（日）の週末４日間、教育センター（弦巻３－１６）に於いて、全８講座が開催されました。

講演名　「飄逸の京焼ー乾山焼の魅力」

　　（竹内順一・永青文庫館長）

　　「世田谷の民俗芸能ー祭り囃子を中心にー」

　　（小野寺節子・国士舘大学文学部講師）

　　「世界遺産　高句麗壁画古墳」

　　（早乙女雅博・東京大学大学院教授）ほか

写真「江戸時代の賄賂政治の実態ー贈賄で助郷負担を遁れた事例ー」（森安彦・国文学研究資料館名誉教授）

➢第７回 野毛古墳まつり

日にち：平成２６年１０月１９日（日）
会　場：区立玉川野毛町公園（野毛１－２０）

今年新たに参加した「古墳にコーフン協会」のコーナーでは、子ども達が古墳消しゴムはんこ作りに熱中していました。また、地域の古墳を巡る「古墳群散策」の参加者からは、「多くの古墳があって驚いた。古墳からの見晴らしがよかった」という感想をいただきました。

➢旧林愛作邸　解説と見学会

F.L.ライト設計「旧林愛作邸」の解説と見学会を４年振りに実施しました。ライト研究の第一人者である建築史家の谷川正己氏にお話しいただきました。通常非公開であるため、たくさんの方にご応募いただきました。抽選に漏れた方には申し訳ありませんでした。

日にち：平成２６年１０月２４日（金）～２６日（日）
内　容：解説（６０分）と見学会（３０分）

➢文化財記録映画上映会

平成２６年１１月１３日（木）～１５日（土）に区立郷土資料館（世田谷１－２９）に於いて文化財記録映画の上映会を実施しました。

区指定有形文化財第１号旧長崎家住宅主屋の移築復原の様子を記録した「甦る古民家」、「古民家は語る」など、世田谷区の歴史・民俗作品１３本を上映しました。

なお、上記作品は、平成２７年１月より「せたがやｅカレッジ」で見ることができます。

➢第９回世田谷区遺跡調査・研究発表会

日にち：平成２６年１１月２９日（土）
会　場：区立教育センター（弦巻３－１６）
①講　演：関東地域の渡来文化―東京湾周辺を中心に―
　講　師：日高　慎（東京学芸大学准教授）
②調査報告：稲荷丸塚及び奥沢台遺跡の発掘調査
　報告者：世田谷区学芸員

➢伝統芸能調査

区教育委員会では、田中宣一氏（成城大学名誉教授）に委託し、伝統芸能について調査を行いました。内容は、活動状況や例祭などにて演奏する曲目、練習の様子など多岐にわたっています。平成２６年度中に文化財報告書として刊行する予定です。

地区内を巡行する石井戸囃子連→

郷土資料館50周年記念特別展「大館蔵品展」

日にち：平成26年11月１日(土)～12月７日(日)

平成２６年は、昭和３９年に都内で初の公立地域博物館として産声を上げてからちょうど５０年目にあたります。皆様からご寄贈・ご寄託いただいたり購入して集まった資料は５万点を超え、このたび公開される機会の少なかった資料を展示しました。あわせて本特別展の展示品「伝・北条幻庵作一節切（ひとよぎり）」の演奏会が開催されました。

第１０回 次大夫掘公園民家園収蔵資料展

「こだわりの大工道具～二村次郎コレクションから～」

民家園が平成２４年に寄贈を受けた、二村次郎の大工道具一式の中から、本人が特にこだわりを持って集めた道具について紹介するとともに、その魅力について探る展示を行いました。

区ホームページで埋蔵文化財包蔵地の照会ができるようになりました。

世田谷区には、古墳、城跡、集落跡などの遺跡が、300か所以上あります。これらの場所を、文化財保護法では「周知の埋蔵文化財包蔵地」と規定し、保存・保護を図っています。「周知の埋蔵文化財包蔵地」で土木・建築工事を実施する場合は、文化財保護法に基づく届出が義務付けられています。

（1） 調査物件の埋蔵文化財包蔵地の該当・非該当が照会できます。

（2） 埋蔵文化財包蔵地該当の場合、遺跡の種類や時代などの遺跡情報が確認できます。「埋蔵文化財発掘の届出」の別記４「遺跡の種類」欄等の記載にご利用ください。

＜検索の仕方＞

区公式ホームページ右下→世田谷区の紹介→地図→せたがやiMap→せたがやiMapを開く→テーマから探す→文化財情報→埋蔵文化財包蔵地→住所を探す（住所入力）

新しく登録・指定された文化財

区指定有形文化財（建造物）

旧棚網家住宅板倉　　１棟

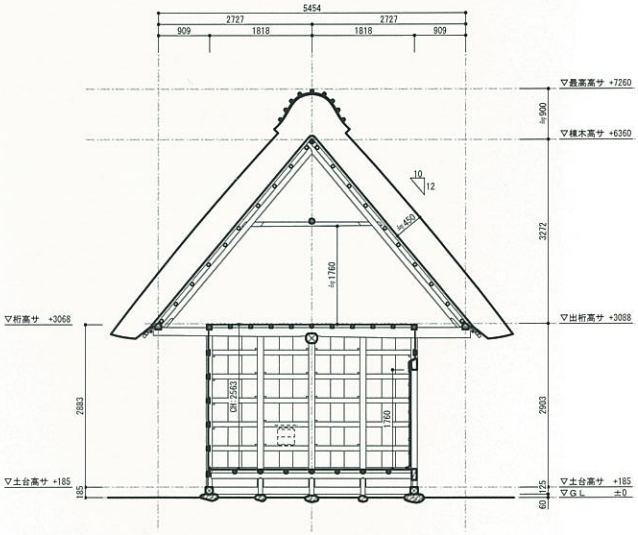
指定年月日　　平成２７年２月２５日
所　有　者　　世田谷区
大　き　さ　　桁行　３間、梁間　２間
　　建築面積 22.78m²

解体前の様子（平成２年）

この板倉は、区内桜丘（旧世田谷村字宇山）の旧家・棚網家の屋敷に建っていました。建築年代は明治４４年（1911）頃と推定されています。

棚網家は、江戸時代には大工であった時期があるようですが、明治中期頃より農業を中心に営み、陸稲や畑作物を栽培していました。板倉は主屋の前庭に建てられ、主に穀物を入れていたようです。出桁構造により屋根を大きく造っているのが特徴で、屋根裏や軒下も物置としての機能がありました。世田谷地域は良質な茅（ススキやチガヤなど）が手に入りにくく、多くの茅葺き屋根には麦稈（「むいから」と呼称）が使われ、この板倉も主に麦稈で葺いていました。

板倉は平成２年に世田谷区に寄贈され、解体して保管しています。現在も部材で保管中ですが、なるべく早く移築復原ができるように検討していきます。



復原断面図

―「復原」の文字について―

世田谷区では「復元」の文字を使用して来ましたが、文化庁では資料などを元に復するものを「復元」、既にあるものに手を加えて復するものを「復原」として使っているため、倣うことにいたしました。

国登録有形文化財（建造物）

Ａ家住宅主屋・土蔵　　２棟

登録年月日　　平成２６年４月２５日
所　在　地　　粕谷２丁目（非公開）

主屋は明治４０年（1907）に建てられた２階建てです。元養蚕農家でした。１階には中廊下があり、前後に部屋を配しています。また、蚕が煙に弱いことから、台所は別棟（現存しない）で設けていました。当時では珍しいブリキ屋根の家で、徳冨蘆花の随筆『みみずのたはこと』にも登場し、「基礎を切石にし、柱の数を多くし、屋根をトタンで包み、縁を欅で張り、木造の鬼の窟の如く岩畳（頑丈）である」と描かれています。

土蔵は明治２４年（1891）に建てられたもので、土蔵造２階建てです。梁の墨書には上北澤村の大工藤吉の名が記されています。

photo by Joe Shimizu

主屋（中央）と土蔵（左）

せたがやの文化財

No. 027

平成26年度事業報告
桜上水八幡神社修理および
ワークショップ……1-2
浄眞寺阿弥陀如来坐像の修理ほか……3
旧清水邸書院の公開事業ほか……4
第７回野毛古墳まつりほか……5
郷土資料館開館５０周年ほか……6
新しく登録・指定された文化財……7
せたがやの文化財にようこそ……8

せたがやの文化財にようこそ

豪徳寺

区指定有形文化財（建造物）　豪徳寺仏殿　photo by Joe Shimizu

豪徳寺は大谿山と号する曹洞宗の古刹で、もとは世田谷吉良氏ゆかりの寺院・弘徳院と称していました。江戸時代の寛永１０年（1633）に世田谷領１５ケ村（のち ２０ヶ村）が彦根藩井伊家の領地となり、これを機に井伊家の菩提寺となりました。万治２年（1659）、二代藩主井伊直孝が没すると、その法号に因んで寺名を豪徳寺とあらためています。写真にある仏殿の建造など伽藍の整備は、直孝の側室・春光院と娘・掃雲院によって寛文～延宝年間（1661～1680）に行われました。

このように古い歴史のある豪徳寺は、招き猫発祥の地としても知られています。井伊直孝が鷹狩りからの帰路、寺の前で手招きする猫を不思議に思って寺に入ったところ突然の雷雨から難をのがれた、というものです。境内の招福堂脇には奉納された数多くの招き猫が置かれ、静かに見守っています。

境内招福堂脇の招き猫

豪徳寺への行き方 … 住 所　世田谷区豪徳寺２－２４－７
交 通　東急世田谷線「宮坂」駅下車徒歩５分または小田急線「豪徳寺」駅下車徒歩８分